

論説、処方権、薬理学 1

30年前に診療を開始した当時の処方箋には薬剤名とその用量を記載するのみで料理本のようなものだった。単純な形式に則った情報は、今日、薬剤を処方する前に考えておかなければならない情報のほんの一部である。時間薬理学はその他の薬理動態学や薬力学の謎を解き明かす鍵となる可能性がある。アスピリンを朝の覚醒時に服用した有用性は確認されなかったが就寝時に服用したところ妊娠合併症は抑制されたと報告されている。時間薬理学は新薬の開発の際に考慮すべき重要項目となっている。多剤投与はすべての年代の人々に広く試みられているが薬剤の相互作用に関する情報にも注意を払う必要がある。独特な遺伝子を有する人々は、特定の薬剤を使用することによって悪影響がもたらされることもある。薬物療法は急速に成長しつつある分野で今なおケア提供者を成長させ、刺激を与えている領域である。

Prescribing Drugs in the 21st Century
Mary C. Brucker, Tekoa L. King
J Midwifery Women's Health. 2011 May-June;56(3):189

選択的分娩、難産、陣痛誘発、オキシトシン、急速収縮 3

オキシトシンは分娩誘発と陣痛強化のために産科領域で一般に使用されている。適応と禁忌を考慮し、個々の患者の臨床所見の慎重な評価が、安全で効果的な投与に不可欠である。使用前にリスクとメリットについて女性やそのパートナーと相談することが、適切なインフォームドコンセントを促す上で重要である。選択的分娩誘発には少なくとも妊娠39週に達していなければならない。最近の研究では、選択的分娩誘発に伴う帝王切開のリスクを低下させる上で、特に薬剤を使用することなく頸管の準備ができるまで選択的分娩誘発を延期することも必要であるという研究結果が示されている。

生理的な変化を考慮したオキシトシンの投与のプロトコールに沿って、分娩誘発や陣痛強化をはかることが副作用のリスクを最小限に抑えるために勧められる。オキシトシンの投与に伴う過剰な子宮収縮に対する治療法として、前方視的に研究されたわけではないが、母体の体位変換、静脈輸液、オキシトシン投与の中止などが子宮の活動を正常に戻す上で有益であるとされている。分娩誘発に関連するケアの監視には全国品質向上フォーラムと合同協議会から発表されている「周産期における質の評価法」が有用とされている。この中には39週前の選択的分娩やリスクが低い初産の母親に対する帝王切開などが取り上げられている。

Clinicians' Guide to the Use of Oxytocin for Labor Induction and Augmentation
Kathleen Rice Simpson
J Midwifery Women's Health. 2011 May-June;56(3):214-221

不安障害、全般性不安障害、強迫性障害、パニック障害、心的外傷後ストレス障害、妊娠 14

30%近くの女性が一生のうち不安障害を経験すると報告されているが、不安障害は妊娠の臨床結果にネガティブな影響を与えるとされる根拠が得られている。不安障害に関してメディアでいろいろ報道がされているが、女性は家族やヘルスケア提供者に不安に関わる徴候や症状をあまり打ち明けようとはしない。さらに、いろいろな研究が進められ教育カリキュラムにも取り入れられているにもかかわらず、プライマリーケアや女性保健に携わるケア提供者は精神衛生の異常の診断や治療は困難であると認識している。この論文では全般性不安障害、強迫障害、パニック障害、心的外傷後ストレス障害などを含む最も一般的な不安障害の診断に有用な特徴や薬物療法などの選択肢について検討した。妊娠に対する不安障害の強い影響とその管理のガイドラインについても述べる。

Spectrum of Anxiety Disorders: Diagnosis and Pharmacologic Treatment
Deborah Brandt Karsnitz, Sheila Ward
J Midwifery Women's Health. 2011 May-June;56(3):266-281

論説、変革、ヘルスケア31

2010年10月5日、Institute of Medicine (IOM) は「変化をリードし健康を促進する看護の未来」と題する報告書を発表した。産業界、研究界、ヘルスケア提供に関わるもの、健康に関わる政策立案者など様々な領域の専門家を代表する学際的委員会が検討を重ね報告書を書き上げた。

委員会は4つの鍵となるメッセージを中心に報告書をまとめ遠大な勧告を発表した。報告書には4つの重要なメッセージが含まれているが、その中には看護師はすでに学習した教育と訓練を完全に実践すべきである、また看護師は絶え間なく学問を前進させる高度教育システムにより高いレベルの教育と訓練を習得すべきである、などと記載されている。

メッセージは8つの勧告に沿って運用されるが、その中には診療範囲という障壁を取り除くこと、2020年までに博士号を保有する看護師の数を2倍にするなどの目標が掲げられている。一般の人々のニーズと期待に応えるためにこれらの勧告は達成されなければならない。看護の未来という報告書の中で示された方向性と期待に応え時代に立ち向かうのはわれわれの責任である。

The Future of Nursing

Nancy K. Lowe, Editor

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2011 May/Jun;40(3):253-254

母乳栄養、プライバシー、妨害、病院診療33

母乳栄養を試みた母親において、母乳栄養を与えている最中に授乳中であることを示すプライバシーサインを掲げることによって、母乳栄養の実施状況と母親の満足度にどのような影響を与えるか検討した。準実験的事後テストに従って研究をデザインした。46名の健康な英語を話す完全母乳栄養を試みた正期産で出産した母児を対象とした。対象者をコントロール群と介入群の2群に分けた。コントロール群は病院において通常のケアを受けたもので、母親には授乳日記をつけるよう指示し最後に質問票に対する回答を求めた。介入群は同様なケアを受けたが、母乳栄養中には授乳中であることを示すプライバシーサインを掲示し授乳が邪魔されないような対応を取った。

授乳中に妨害とみなされる出来事回数は介入群において有意に低下した。介入群の対象者は母乳栄養が成功したという意識を有し、アンケートに対しポジティブな反応を示した。母乳栄養回数、母乳栄養の合計時間、生後2日目の体重減少の割合は2群間で差は認められなかった。母乳栄養中の妨害回数は母乳栄養であることを示すプライバシーサインを掲げることによって明らかに低下し、母親は母乳栄養が成功したという認識のレベルは高かった。

An Evaluation of a Breastfeeding Privacy Sign to Prevent Interruptions and Promote Successful Breastfeeding

Jennifer Albert, Jody Heinrichs-Breen

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2011 May/Jun;40(3):274-280

身体活動、態度、中年、女性、オンラインフォーラム39

女性主義的な観点からアメリカの白人中年女性の身体活動に関する態度を調査した。中年女性のためのインターネットコミュニティを活用し、主題分析を用いて横断面的定性的研究を行った。29名の白人中年女性が調査の対象となった。オンラインフォーラムを介し身体活動に対する態度と民族特異的背景に関する17のトピックスについて主題分析によってデータを調べた。3つの主要なテーマが明らかにされたが、1つ目は行動せずに考える、2つ目は女性に特有な座りがちな文化、3つ目は自らの動機付け、であった。

女性たちは自分の身体と心の健康のために身体活動の重要性は理解はしていたが、ほとんどの女性は身体活動を高めるような行動は試みていなかった。女性の身体活動を制限する文化は本質的に座りがちな文化が背景にあり、女性はいくつかの創造的な戦略で身体活動を増やそうと動機付けを試みていた。しかし、女性は最善を尽くしてはいるが現状は改善されず、日常的に女性の身体活動を増やすためにはアメリカの文化そのものの変容が必要であることが強く示唆された。

Attitudes Toward Physical Activity of White Midlife Women

Eun-Ok Im, Bokim Lee, Wonshik Chee, Alexa Stuijbergen, and the eMAPA Research Team

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2011 May/Jun;40(3):312-321